

第2次

中津市地域福祉計画

中津市地域福祉活動計画

概要版

思いやりあふれ、安心して暮らせるまち

「福祉の里づくり」愛の輪をめざして



中 津 市
中津市社会福祉協議会



目次

地域福祉計画

計画の趣旨	1
計画の期間	1
計画の策定体制及び策定経過	2
各主体の役割	2
計画の基本理念	3
用語の説明	3
施策の体系図	4
基本目標1 人材づくり（まなび愛）	5
基本目標2 サービス・活動（たすけ愛）	7
基本目標3 関係づくり（ふれ愛）	9
基本目標4 しきみづくり（ささえ愛）	11

地域福祉活動計画

計画の趣旨	13
南部	14
北部	15
豊田	16
沖代	17
小楠	18
鶴居	19
大幡	20
如水	21
三保	22
和田	23
今津	24
三光	25
本耶馬溪	26
耶馬溪	27
山国	28

地域福祉計画

計画の趣旨 —地域福祉計画・地域福祉活動計画とは—

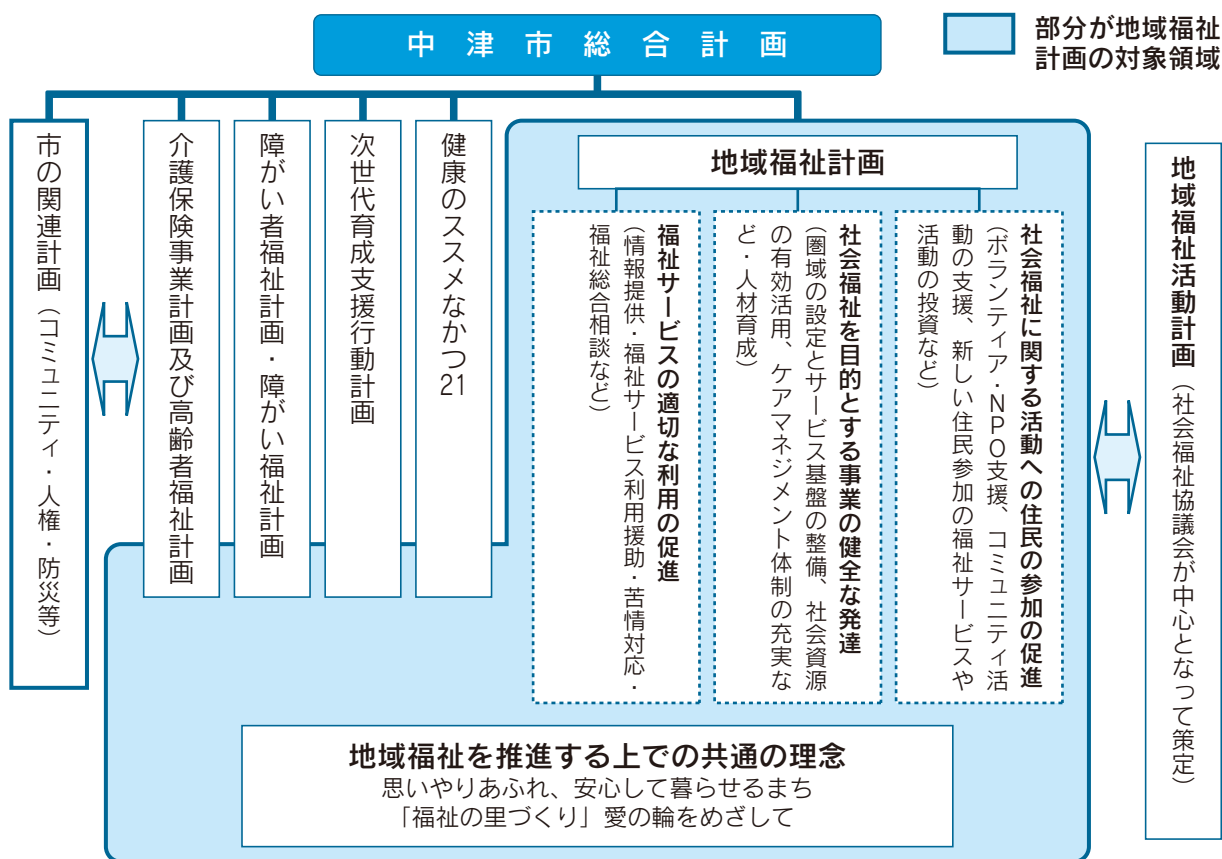
「地域福祉計画」とは

社会福祉法第107条の規定に基づき、地域福祉の推進に取り組むための総括的な計画として、市町村が策定する計画です。

「地域福祉活動計画」とは

社会福祉法第109条の規定に基づいて設置された社会福祉協議会が中心となり、地域福祉の推進に取り組むための実践的な計画として、地域住民や福祉活動を行う民間団体等が策定する計画です。

計画の位置づけ



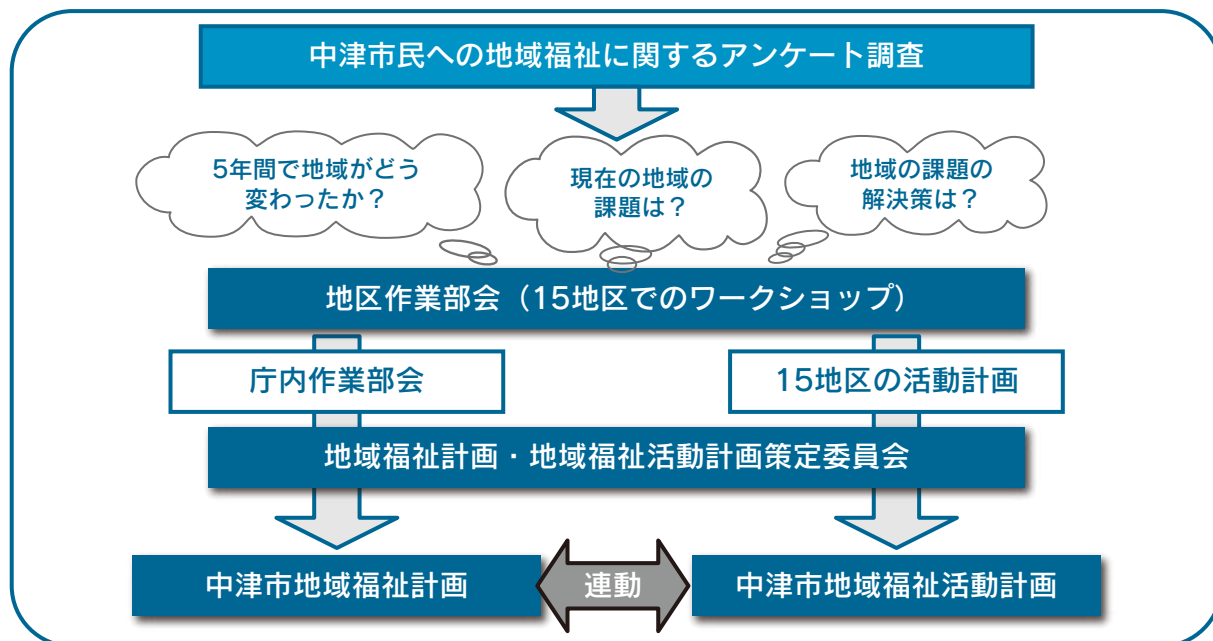
地域福祉を推進する上での共通の理念
 思いやりあふれ、安心して暮らせるまち
 「福祉の里づくり」愛の輪をめざして

計画の期間

地域福祉計画及び地域福祉活動計画の計画期間は、平成24年度から平成28年度までの5年間とします。

計画の策定体制及び策定経過 —市民の参画による計画策定—

中津市では、各地区における住民のワークショップにおいて、中津市の課題について話し合い、さらに行政や住民自身がこれらについて具体的な取り組みの計画をたてることで、地域福祉計画と地域福祉活動計画とが連動した計画となっています。



各主体の役割

この地域福祉計画・地域福祉活動計画を実行し、目標を達成していくには、地域住民・事業所・社会福祉協議会・行政など、地域に関わるすべての人や団体が互いに理解し合い、それぞれの長所を生かし、「協働」することが重要です。

住民の役割

住民一人ひとりが、地域福祉に対する関心や意識を高め、地域社会の構成員の一員であることの自覚をもち、地域福祉の担い手として自らボランティアなどの社会活動に積極的かつ主体的に参加したり、お互いに地域で支え合う関係・活動・しくみをつくり、目標に向かって取り組んでいくことが求められます。

事業所・団体等の役割

サービスの提供者・協力者として、サービスの提供、事業内容やサービス内容の情報提供及び周知、他のサービスとの連携に取り組むことが求められます。また、地域福祉ニーズに基づく新たなサービスの開発や、地域社会との関係づくりや福祉のまちづくりへの参画に努めることが求められます。

社会福祉協議会の役割

地域福祉を推進することを目的とする団体として各市町村に設置されている社会福祉協議会は、地域の実情を把握し、住民と共に地域課題に取り組む組織です。総合的な相談事業、ボランティア活動の推進、福祉意識の啓発、人材育成、小地域ネットワーク活動、地域の実情に応じたサービスや支援などを、今後更に地域密着で行なっていくために、地域の福祉組織づくりやその活動を推進していきます。

行政の役割

行政には市民の福祉の向上を目指して福祉施策を総合的に推進する責務があります。それを果たすために、地域福祉を推進する社会福祉協議会やボランティア団体等と相互に連携、協力を図るとともに、市民のニーズの把握と地域の特性に配慮した地域福祉のしくみづくりに努めます。さらに、地域福祉への住民参加を促進し、地域福祉活動拠点の整備に関する支援や情報提供の充実に努めます。

計画の基本理念

思いやりあふれ、安心して暮らせるまち「福祉の里づくり」 愛の輪をめざして

中津市の地域福祉の推進にあたっては、日々の生活の場である「地域」において、住民の一人ひとりが障がいの有無や年齢などにかかわらず、自分らしい生き方や幸せを追求でき、思いやりあふれ、安心して暮らせるまち「福祉の里」づくりを目指した愛の輪をひろげます。

そのためには、自分のことは自分でする「自助」と、住民同士の助け合いである「共助」、これらを積極的に支援する行政の「公助」を一体的にすすめ、住民、各事業所、社会福祉協議会、行政といった異なる主体同士が協力する「協働」により、地域に根ざした福祉を目指します。

用語の説明

第1次計画では「自助・互助」「共助」「公助」という概念整理でしたが、地域住民の方々の支え合いの取り組みは「互助」と「共助」の両方の要素が含まれていることから、今回、「自助」「共助」「公助」とすることで取り組み内容の主体を明確にしました。そして、これまで「共助」の概念に含まれていた「さまざまな立場の横のつながりによる取り組み」を「協働」とすることにより、参画・連携を調整しながら推進していくこととしました。

この計画において、基本となる助け合いの形
「自助」「共助」「公助」「協働」は次のような意味となります。



自助

【住民一人ひとりができること】
それぞれができることを自分の努力で行うこと。

共助

【住民同士のできること】
隣近所や地域住民同士で思いやりをもち、互いに支え合って行うこと。

公助

【行政ができること】
個人や地域社会では解決できない問題への取り組みや、自助、共助の推進について、行政が主体となって行うこと。

協働

【住民と各種団体・行政などが協力してできること】
いろいろな取り組みを、住民・事業所・社会福祉協議会・行政など、異なる主体同士が協力して行うこと。

施策の体系図

基本理念 思いやりあふれ、安心して暮らせるまち「福祉の里づくり」 愛の輪をめざして

基本目標	推進目標	推進項目	重点目標
1. 人材づくり 【まなび愛】	(1) お互いを思いやる福祉のこころを育てよう	福祉・人権教育の充実 家庭の教育力の向上 日常生活マナーの向上	福祉教育を全小学校で行います。
	(2) ボランティア活動を広げよう	ボランティア活動に参加しやすい環境づくり ボランティアの育成	ボランティア養成講座を年2回以上開催します。
	(3) 地域福祉の担い手を育成しよう	地域リーダーの育成 地域福祉コーディネーターの育成	地域福祉リーダー研修を年1回以上開催します。
2. サービス・活動 【たすけ愛】	(1) 福祉サービスを充実させよう	住民型有償サービスの拡充 利用しやすい生活支援サービスの提供	有償サービス団体を3団体から5団体に増やします。
	(2) 地域の寄り合いの場をつくろう	サロン等の活動の推進	15地区すべての地区で、1ヶ所以上の寄り合いの場の設置に取り組みます。
	(3) 情報を充実させよう	わかりやすい情報発信 相談しやすい環境づくり	「地域の情報がわかりやすく伝えられている」と感じている人の割合50%以上を目指します。
3. 関係づくり 【ふれ愛】	(1) 交流の機会をつくり、相互理解を深めよう	家族のつながりを深めよう 交流の機会づくり	「地域の行事などに積極的に参加している」人の割合50%以上を目指します。
	(2) 地域の見守り体制をつくろう	見守りネットワークの推進 子どもの見守り活動の推進 情報交換の場づくり	「日頃から隣近所との付き合いを大切にしている」人の割合80%以上を目指します。
	(3) 各種団体が協力し合う関係をつくろう	関係機関への協力要請の推進 地域の活動団体の情報収集	15地区すべての地区で、地域活動団体のデータベースをつくります。
4. しきみづくり 【ささえ愛】	(1) 地域の支え合いのしくみをつくろう	地域福祉ネットワーク協議会の整備 自主防災組織の整備と訓練の実施 地域ぐるみの防犯体制整備	15地区すべての地区に、地域福祉ネットワーク協議会を設置します。
	(2) 地域の環境整備を進めよう	移動手段の確保 日常生活に必要な買い物がしやすい環境整備 地域の実態に応じた環境整備	日常の交通・買い物の満足度70%以上を目指します。
	(3) 地域福祉の総合推進体制をつくろう	市の支援員による地域活動の支援 地域福祉計画推進委員会の設置	地域福祉計画推進委員会を年1回以上開催し、進捗状況を管理します。

基本目標1 人材づくり(まなび愛)

地域福祉の推進には、住民自らが活動に参加することが重要です。住民がお互いを尊重し合い、助け合う意識や気運を高めるとともに、学びの場をつくることで、地域福祉の担い手を育成します。

重点目標

- 福祉教育を全小学校で行います。
- ボランティア養成講座を年2回以上開催します。
- 地域福祉リーダー研修を年1回以上開催します。

推進目標1 お互いを思いやる福祉のこころを育てよう



自助

- 福祉の学習会に積極的に参加します。
- ゴミの分別やペットのしつけをきちんとし、相手の立場に立って行動します。
- 地域の清掃活動に積極的に参加します。

共助

- 地域の集う場を活用し、福祉に関する学習会を開催します。
- 異世代の交流の機会をもつことで、思いやりの心を育てます。
- 地域の行事への参加を呼びかけ、出会いを通して心の育成を図ります。
- 地域の中で、生活ルール・マナーの徹底を図ります。

公助

- ゴミだしのルールが徹底されるよう、出前講座を開催します。
- ゴミやペットに関するマナーの啓発のため、看板を設置したり、広報車による呼びかけを行います。
- 不法投棄パトロールを行います。
- 社会福祉協議会が行っている「わいわい福祉ひろば」などの福祉教育を支援します。
- さまざまな機会を活用して人権(女性・子ども・障がいのある人・高齢者・同和問題・外国人など)に関する意識の啓発に努めます。

協働

- 学校教育と連携した福祉学習を広げていきます。
- 企業での福祉教育を行います。



推進目標2 ボランティア活動を広げよう

自助

- ボランティア活動へ積極的に参加します。
- 各種ボランティア研修会や講座に参加します。
- 友人・知人に地域活動への参加の声かけをします。

共助

- 地域の中でボランティアに参加できる機会を増やします。
- ボランティアの情報収集をします。
- ボランティアの情報発信や相談窓口を設けます。
- 誰もが参加しやすい雰囲気づくりに努め、地域内の活発な交流を促します。

公助

- ボランティア活動の啓発を行います。
- 企業や学校などへ、ボランティア参加の呼びかけを行います。
- ボランティア団体相互の交流や情報交換、連携によるボランティアの人材発掘・育成を支援します。
- 現在行っている「認知症サポーター養成講座」や「手話・点字」などの講習会を継続します。

協働

- 企業内でボランティア活動や地域活動への意識啓発をします。
- 広域的にさまざまなボランティアの情報収集を行います。
- ボランティアの情報が共有しやすい仕組みづくりをします。



推進目標3 地域福祉の担い手を育成しよう

自助

- 自分の住んでいる地域に関心を持ちます。
- 地域の行事に積極的に参加します。

共助

- 地域福祉ネットワーク協議会の事務局体制を充実します。
- リーダーやコーディネーターの人材確保に努めます。
- 地域の行事への参加を推進することで人材を育成していきます。

公助

- 地域福祉ネットワーク協議会(地区社協)の立ち上げ支援や組織の充実を図ります。
- 地域福祉ネットワーク協議会の立ち上げ・運営に必要な人材の発掘・育成の支援をします。
- 高齢者や障がい者のボランティア活動への参加の機会を高めます。
- 事業所などで行う福祉人材育成の研修や相談、指導を担当する専門職員に制度改正などの情報を迅速に伝えます。

協働

- 地域福祉に関する研修会・講座を開催します。
- 地域リーダー、地域福祉コーディネーターなどの育成をします。

基本目標2 サービス・活動(たすけ愛)

地域で困りごとを抱えている人へのサービスを充実させるため、地域の活動の支援や、生活支援サービスの充実をします。また、サービスが利用しやすい環境をつくるため、気軽に相談できる場所づくりや積極的な情報提供をすすめます。

重点目標

- 有償サービス団体を3団体から5団体に増やします。
- 15地区すべての地区で、1ヶ所以上の寄り合いの場の設置に取り組みます。
- 「地域の情報がわかりやすく伝えられている」と感じている人の割合50%以上を目指します。

推進目標1 福祉サービスを充実させよう



自助

- サービスに関する情報を積極的に集めます。
- 隣近所で困っている人を助けます。

共助

- 福祉サービスに関する学習の場を設けます。
- 福祉サービスを必要としている人の状況を把握します。
- 有償サービス活動を理解し、参加していきます。

公助

- 現在実施している在宅福祉サービスの現状を把握し、適正な福祉サービスを提供します。
- ファミリーサポートセンターの設置などにより、地域の支援してほしい人と支援する人をつなげます。
- 有償サービス団体の研修を支援します。
- 有償サービス団体を増やすために啓発を行います。

協働

- 住民型有償サービスの担い手を育成します。
- 新規の住民型有償サービス団体の発足に向けた取り組みを行います。
- 福祉専門機関との連携を密にします。



推進目標2 地域の寄り合いの場をつくろう

自助

- 寄り合い活動に誘い合って参加します。
- 寄り合い活動に協力します。

共助

- 地域で気軽に行ける寄り合いの場をつくります。
- 寄り合いの場づくりの話し合いに、地域のいろいろな人の参加を呼びかけます。
- 寄り合いの場のボランティアを育成します。

公助

- 寄り合いの場の設置、運営の支援をします。
- 寄り合いの場の整備に対する助成をします。
- 寄り合い活動を行っている団体同士の交流の推進をします。

協働

- 寄り合いの場活動についての普及啓発活動を行います。
- 寄り合いの場活動を行っている団体同士の交流の機会を持ちます。

推進目標3 情報を充実させよう



自助

- 生活に必要な情報を積極的に集めます
- 困ったことがあるときには相談します。
- 自分の知っている便利な情報を周囲に知らせます。

共助

- 地域に密着した情報が住民にいきわたる情報発信の方法を工夫します。
- 公民館を拠点として身近な相談窓口を設置します。
- 情報発信、相談対応ができる人材確保を行います。

公助

- サービスの情報を充実します。
- どのような情報が必要とされているかを把握し、ニーズに合わせた情報提供に努めます。
- 相談の場をつくり、相談体制を充実します。(障がいのある人のための就職面接会や健康相談、栄養相談、スクールカウンセラーの設置、福祉相談室の設置など)
- 地域の相談窓口となる地域福祉コーディネーターの設置を支援します。

協働

- 地域に密着した情報発信、相談窓口(地域福祉ネットワーク協議会)の拠点づくりを行います。
- 地域の情報、行政の情報などさまざまな情報が集まるしくみを考えます。

基本目標3 関係づくり(ふれ愛)

住民同士のネットワークづくり、交流の機会づくりを推進します。また、地域福祉活動を進めるにあたっては、住民と事業者、社会福祉協議会、行政が協力して行います。

重点目標

- 「地域の行事などに積極的に参加している」人の割合50%以上を目指します。
- 「日頃から隣近所との付き合いを大切にしている」人の割合80%以上を目指します。
- 15地区すべての地区で、地域活動団体のデータシートをつくりまします。

推進目標1 交流の機会をつくり、相互理解を深めよう



自助

- 家族で交流する機会を大切にします。
- 積極的にあいさつをします。
- 地域の行事に積極的に参加します。

共助

- 地域の行事を協力して行います。
- あいさつ運動を推進します。
- 地域の居場所づくりを行います。

公助

- 企業に対し、子育てしやすい労働環境の整備を啓発します。
- 男女共同参画、ワークライフバランスを推進します。
- 親同士の交流の場や、子どもの居場所づくりをします。
- 障がいのある人との交流事業を行います。
- 同じ悩みを抱える人の団体(家族の会など)の広報、支援をします。

協働

- 地域での交流の機会が少ない人たちの状況を把握し、解決に向けての話し合いを行います。
- 同じ悩みを抱えている人たちの交流の場づくりを行います。



推進目標2 地域の見守り体制をつくろう

自助

- 回覧板を手渡して渡します。
- 隣近所の人との付き合いを大切にします。

共助

- 住民で協力し合って地域の見守り体制をつくり、孤立を防ぎます。
- 日頃からの住民同士の見守り、声かけ活動を行います。
- スクールガードや防犯パトロール活動を通じた声かけ活動を充実します。

公助

- 見守りネットワークづくりの支援を行います。
- スクールガード、防犯パトロールの推進をします。
- 見守り活動を行う人への情報提供を行います。

協働

- 見守りや声かけから気づいたことが、適切に関係機関につながる仕組みをつくりま

推進目標3 各種団体が協力し合う関係をつくろう



自助

- 地域の団体や機関に関心を持ちます。

共助

- 地域の社会資源を調べます。
- 地域の各種団体との交流、情報共有の機会を設けます。

公助

- 地域の団体と連携をとりやすくするため、地域の活動団体のリストを作成します。
- 関係機関と定期的に連絡会議を開催し、情報交換を行います。

協働

- 関係機関の情報収集、情報共有の機会をつくりま
- イベント、行事ではいろいろな団体に声掛けし、協力して行います。
- 高齢者、障がいのある人、子どもなど支援が必要な人に対する支援を関係機関や地域の人と連携して行います。

基本目標4 しくみづくり(ささえ愛)

地域における活動の拠点づくり、体制づくりをハード、ソフトの両面から進めます。また、住民と事業者、社会福祉協議会、行政が連携した、地域福祉の推進体制をつくります。

重点目標

- 15地区すべての地区に、地域福祉ネットワーク協議会を設置します。
- 日常の交通・買い物の満足度70%以上を目指します。
- 地域福祉計画推進委員会を年1回以上開催し、進捗状況を管理します。

推進目標1 地域の支え合いのしくみをつくろう



自助

- 地域活動への参加を積極的に行い、関心を持ちます。
- 非常用持出品を用意します。
- 自主防災組織や防災訓練に参加します。
- だまされない正しい知識と強い意志を持ちます。

共助

- 地域の関係者による地域福祉ネットワーク協議会(地区社協)をつくります。
- 住民が参加しやすい地域福祉ネットワーク協議会の仕組みを考えます。
- 自主防災組織を整備し、防災訓練を実施します。
- 避難に支援が必要な人の支援方法を決めておきます。
- 避難場所・避難経路を確認します。

公助

- 地域福祉ネットワーク協議会の立ち上げを推進し、立ち上げ経費の助成を行います。
- 地域福祉コーディネーターの設置を推進します。
- 活動拠点の提供・整備を行います。
- 防災組織の企画運営や避難支援計画の作成を支援します。
- 災害時要援護者の情報伝達の仕組みづくりを行います。
- 防犯対策についての出前講座を行います。

協働

- 地域福祉ネットワーク協議会と専門機関との協力、連携の関係づくりを行い、防災・防犯体制を強化します。
- 地域福祉ネットワーク協議会への参加促進を行います。
- 災害時要援護者の情報把握に努めます。



推進目標2 地域の環境整備を進めよう

自助

- 積極的に公共交通機関を利用します。
- 地域のお店で買い物をします。
- 隣近所で困っている人の手伝いをします。

共助

- 移動に困っている人を助け合える仕組みをつくります。
- 日常生活で困っていることのニーズ把握を行います。
- 地域の清掃活動への参加を促し、地域の環境整備を行います。

公助

- 地域公共交通について、利用実態把握、ニーズ調査、シミュレーションなどを通して、公共交通の整備を図り、利便性の向上を目指します。
- 小中高等学校への通学補助やスクールバスの運行を行います。
- 定期的に生活支援会議を開催し、注文宅配や移動販売、店舗への送迎などの買い物支援を検討し、関係団体と連携しながら買い物環境の整備を図ります。
- 公共施設、道路などの整備・点検を行うとともに、地域の実態を調査し、地域に合わせた対応と整備に努めます。
- 空き家の実態調査をし、資源の活用に努めます。
- 公共施設のバリアフリー化をすすめます。

協働

- 日常生活に関する実態把握調査を行ったり、各調査の情報共有を行います。
- 調査による生活困難ニーズを解決するための話し合いを行い、方法を検討します。



推進目標3 地域福祉の総合推進体制をつくろう

自助

- 地域の一員であることの自覚を持ち、積極的に地域との関わりを持って、安心・安全な暮らしやすい地域づくりに協力します。

共助

- 地域の暮らしをよりよくするために、地域住民のニーズを専門機関や行政に伝えたり、ニーズに合わせた地域活動に積極的に取り組みます。
- 地域福祉コーディネーターと市の支援員とが連携します。

公助

- 集落支援員・地域支援員を設置し、地域活動の支援と団体間の調整等を行い、地域の課題解決に取り組みます。
- 地域福祉計画推進委員会を設置し、計画の進捗管理を行います。
- 庁内検討委員会を開催し、市の事業の進捗管理と連携の強化を図ります。

協働

- それぞれが提供するサービスの充実を図るとともに、他のサービスとの連携に取り組みます。
- 地域福祉への住民参加の支援や、福祉のまちづくりへの参画に努めます。
- 地域福祉活動計画の進捗状況を管理できる各地区の仕組み(地域福祉ネットワーク協議会)づくりに取り組みます。

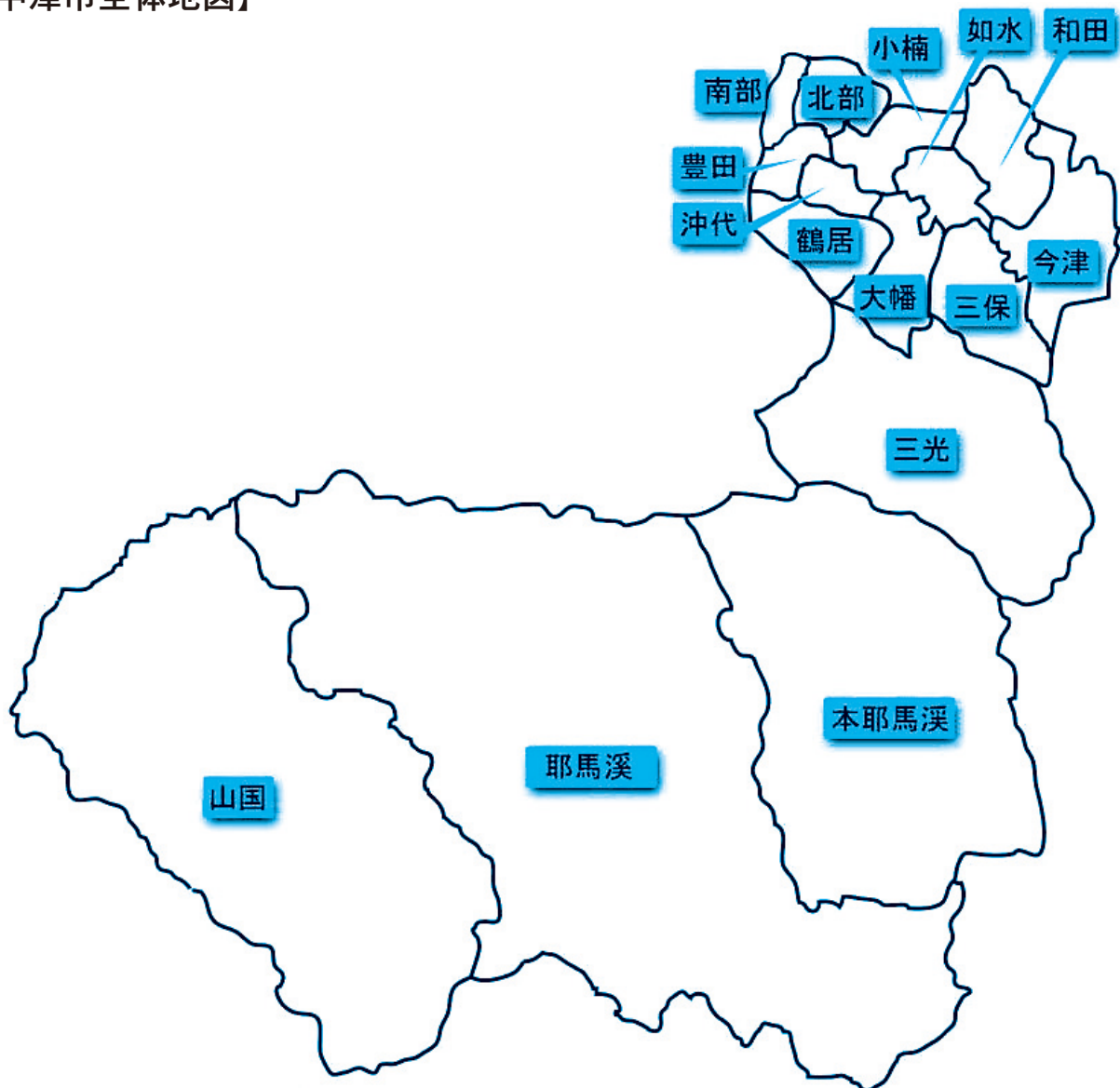
地域福祉活動計画

計画の趣旨

地域福祉の推進においては、住民を施策の対象としてだけでなく、地域福祉の担い手として位置づけるとともに、住民の自主的な活動と、関係団体、公的なサービスとの連携・協働体制を構築することが重要です。

そこで、中津市地域福祉活動計画では、市内を日常生活圏域の単位として15の地区に分け、住民が主体的に話し合い、検討した内容を踏まえ、地区における「共助」による地域福祉の具体的な取り組みを定めることで、住民自身が主体的に地域福祉に参画し、地域の生活課題の解決に協力し合って身近なところから取り組めるような活動計画として策定しています。

【中津市全体地図】



南 部

スローガン

地域みんなが家族になって、共に見守り・育ち合う南部



いきいきサロン「金谷鶴亀サロン」で交流する皆さん



南部ワークショップ風景

実践目標 1 地域の交流を深め南部の“絆”を強めよう

- 内容**
- ①地域の絆をつくろう
 - ②みんなで子育てに参加しよう
 - ③地域全体に視野を広げよう

効果 あらゆる場や場面で交流（地域コミュニケーション）することで、地域情報の共有や当事者（高齢・障がいなど）の理解につながり、地域住民の支え合い意識が深まり地域の“絆”が確立できます。

実践目標 2 ボランティア活動を広めよう

- 内容**
- ①ボランティア活動を知ってもらおう
 - ②公民館を拠点とした窓口をつくろう
 - ③地区ボランティアの会を立ち上げよう

効果 活動を通じて、ボランティア意識の向上を図ることができると共に、さまざまな場面で活躍することのできる人材の発掘や育成（例：防災・防犯に関わる人材の発掘、育成など）また、南部地区全体を支える新たな関係づくりや仕組みづくりへと発展していくことも期待できます。

実践目標 3 日頃から防災・防犯の備えをしよう

- 内容**
- ①日頃から防災・防犯の備えをしよう
 - ②災害時の初動マニュアルをつくろう

効果 防災・防犯に関する仕組みづくりを通して地域住民の防災意識が高まり住民同士の連携が生まれます。また住民自らが活動に参加することで、地域の防災・防犯体制に関わる担い手としての人材育成にも繋がっていきます。さらには日頃からの見守りネットワークを進めることで地域のつながりがより深まり地域の連帯感が強まります。

北 部

スローガン

「絆」そして「三つのワ（話）（輪）（和）」で地域の安心・安全を目指す



三百間の浜クリーンアップ作戦



北部ワークショップ風景

実践目標 1 高齢者が安全で安心して暮らせる環境をつくる

- 内容**
- ①地区ごとにサロンをつくる
 - ②北部校区地区社会福祉協議会の設立に向け平成24年度上期中に準備を完了する

効果 北部の各地区にサロンをつくることにより、高齢者を中心とした地域住民の寄り合いの場ができ、地域住民の絆を深めることにつながります。

実践目標 2 災害時に強い地域の構築を目指す

- 内容**
- ①自治区ごとに自主防災組織を構築及び再構築する
 - ②防災訓練の実施を行う（平成24年度中に準備完了する）

効果 自治区ごとに自主防災組織を構築及び再構築し、防災訓練を行うことにより、防災意識の向上や地域における要援護者の把握をすることができ、災害発生時に迅速に避難活動を行うことができます。

実践目標 3 住民の健康増進を図る

- 内容**
- ①子どもたちと夏休みのラジオ体操を実施する
 - ②中津市主催の各種健康講座・スポーツ大会などに積極的に参加する
 - ③公民館活動の中に健康講座を設ける

効果 ラジオ体操やスポーツ大会、健康講座へ参加することにより、健康づくりや異世代交流の場ができ、健康増進と地域における絆づくりにつながります。

豊 田

スローガン

子どもからおとなまで、笑顔で結ぶ豊田の輪



地域サロン「宮永福ろうの家」



豊田ワークショップ風景

実践目標 1 「生き生き・豊田」を頑張り、組織を強化してゆこう

内容

- ①買い物をしやすくしよう
- ②“障がい”について学ぶ機会をつくろう
- ③防犯体制を強化しよう
- ④自主防災組織をつくろう

効果

「生き生き・豊田」を中心とした組織を強化し、必要箇所との連携を図ることにより地域情報の共有や当事者（高齢・障がいなど）の理解が深まり、地域の実情に即した日常的に支え合う関係づくり（地域の絆）が出来ます。

実践目標 2 地域みんなが参加できる交流の場をつくろう

内容

- ①情報交換の場をつくる
- ②公民館を使って子どもの居場所をつくる
- ③地域と連携し、公民館を中心に地域で集まれるような『行事』を計画し、実施する

効果

地域の活性化につながり、みんなが集まることで人と人との交流も生まれ、その中で互いに情報の共有ができ、楽しみも増えます。

沖 代

スローガン

みんながここに住んで良かったと思える地域づくり



地域サロン「沖代寄り合い所すずめの家」



沖代ワークショップ風景

実践目標 1 地域 みんなに情報を発信しよう!

内容

- ①地域の情報を発信しよう
- ②地域の情報を収集しよう

効果

住民が地域の情報をわかりやすく受け取ることができ、新しい情報を発信・収集していくことで、住民同士の関係をつなげていくことができます。

実践目標 2 地域 みんなで防災意識を高めよう!

内容

- ①自治区での防災訓練を充実させよう
- ②沖代の防災マップを作成しよう

効果

災害時にとるべき行動を知ることができ、住民同士の防災意識を高めることができます。また、訓練に参加することにより、住民同士が、日頃から声をかけあったり、助け合ったりできる関係づくりにつながります。

実践目標 3 地域 みんなで楽しめる場をつくろう!

内容

- ①曜日と場所を決めて、沖代「青空市場」を開こう
- ②地区全体で行う盆踊りをつくろう

効果

住民が集まることで、世代間のコミュニケーションをとることができ、さらに、地域の高齢者や障がい者との交流の場にもつながります。また、地域での楽しみができ、参加団体の活動や地域の活性化にもつながります。

小 楠

スローガン

小楠を安心して暮らせる町にしよう



公民館まつり



小楠ワークショップ風景

実践目標 1 防災・防犯に対する組織をつくり、地域の安心・安全を図ろう

内容

- ①防災組織の必要性について理解しよう
- ②自治区単位で防災組織をつくる
- ③自主防災組織の活性化
- ④地域の見守りを強化する

効果

- ・地域のリーダー育成につながります。
- ・お互いに声を掛け合い孤立化を防ぐことにつながります。
- ・地域の活性化につながります。
- ・地域の絆が深まります。

実践目標 2 小楠福祉ネットワークをつくり、交流の機会を増やそう

内容

- ①小楠福祉ネットワークをつくる
- ②サロンづくり
- ③ひとり暮らし高齢者などの見守り体制づくり

効果

- ・集う拠点ができることにより、世代間交流の機会になります。
- ・障がいのある人とのふれあいを通じ、障がい理解が広がり、災害時の支援体制の充実や自立性にもつながります。
- ・地域で活動する各種団体や関係者の横のつながりができ、お互いに支え合う雰囲気づくりから既存の団体のさらなる活性化にもつながります。
- ・若い人だけでなく、高齢者も地域で活躍することで元気でいきいきと生活ができます。
- ・コミュニケーションが深まり、あいさつできる関係づくりにつながります。

実践目標 3 みんなが子育てに関心を持とう

内容

- ①既存の子育て活動を充実させ、地域の子育て世代の交流の場としても利用する
- ②子どもが地域の活動に参加しやすい環境を整える

効果

- ・みんなが子育てに関心を持つようになります。
- ・リーダー（人材）育成になります。
- ・地域ぐるみの子育て活動により、将来、子どもたちが地域に貢献する人に育つことが期待できます。
- ・世代間交流が出来ます。

鶴 居

スローガン

安心して生活できる地域づくり



学びの教室



鶴居ワークショップ風景

実践目標 1 地域ぐるみで支え合える機会をつくろう

内容

- ①高齢者が近所で集えるような場をつくる
- ②親子や子どもが参加できる活動の場をつくる
- ③防犯体制を充実させていこう

効果

- ・地域住民同士の交流・支え合いにつながります。
- ・健康の増進や障がい・認知症などへの理解、世代を超えた交流などの実現が期待できます。
- ・既存の活動を継続しつつ強化・発展することで、地域における防犯体制の充実と住民一人ひとりの意識の向上につながります。

実践目標 2 地域ぐるみで見守り声かけネットワークをつくろう

内容

- ①高齢者・障がいのある人への声かけネットワークづくり
- ②子どもへの声かけネットワークづくり

効果

- ・複数の団体や人が関わりを持ち、地域ぐるみで連携して声かけ・見守りの実施ができます。
- ・子どもや高齢者、障がいを持つ人が安心して暮らせる地域づくりの実現が期待できます。

実践目標 3 地域活動の後継者を育成しよう

内容

- ①顔が見える関係づくりを通して人材を育てよう

効果

若い世代が活躍できる場を増やし活用することで、将来の地域を担う住民との関係づくりができ、新たな世代と共に活動することで地域活動の後継者の育成へとつながっていきます。

大 幡

スローガン

“向こう三軒両となり” 支えられたり 支えたり 住みたくなる町 大幡



防災マップづくり



大幡ワークショップ風景

実践目標 1 情報を共有し、声掛け合い、助け、助けられる地域をつくろう

内容

- ①関係する団体が集まった、大幡福祉の会“輪”が、地域の“お助け隊”となる組織をつくろう
- ②社会資源リストを見直し、地域に配布しよう

効果

団体相互の情報を共有することで、行政サービス・民間サービスが使いやすくなり、住み慣れた家で自立した日常生活ができる事につながります。

実践目標 2 地域の見守り活動を展開し地域の“つながり”を深めよう

内容

- ①支援の必要な方への見守り活動をしよう
- ②地域全体で児童の見守りを進めよう

効果

ご近所や世代間で“見守り活動”を展開することで、地域のつながりができ、住みやすい大幡になると期待されます。また、ひとり暮らし高齢者の孤独解消や地域内の情報共有が確立され、緊急時や災害時にも強い地域が効果として期待されます。

実践目標 3 地域みんなが集まれる場をつくろう

内容

- ①今ある“ふれあいの場”を利用、活用し交流しよう
- ②小地域単位（班単位での集会所などを利用して）の“ふれあいの場（イベントなど）”をつくる

効果

地域住民が集まることにより、住民同士の交流へとつながり連帯が生まれます。また、その中でそれぞれの抱える問題を共に考え検討することで、問題解決へ向けた取り組みや、大幡全体の意識の向上につながります。

如 水

スローガン

如水はひと家族 安心して温かいまちづくり



ミニデイ「如水サロンふれ愛」



如水ワークショップ風景

実践目標 1 隣近所のかかわりを深め安心・安全な地域づくりをしよう

内容

- ①人材の育成をする
- ②自治会単位の自主防災組織をつくる
- ③防災避難訓練の実施

効果

地域の交流を通して人材の育成を行う事で地域のつながりが強くなります。自治会単位で自主防災組織をつくる事により細かい住民の対応が出来、地域のコミュニケーションや情報の周知方法の徹底、住民の把握ができることにより良い地域での関係づくりにつながります。

実践目標 2 ふれあいの場をつくろう

内容

- ①地区の中で話し合いの場を持つ
- ②小単位（如水で6地区）で寄り合いの場をつくる

効果

高齢の方に限らず、障がいのある方、子育て中の母親など、地域で孤立しがちな人たちがつながりを持ち、いざというときにも支え合う関係づくりができます。また、ふれ合いの場をつくることで、共助の体制づくりやコミュニケーションの活発化を図り、地域の活気を取り戻すことにつながります。

三 保

スローガン

三世代交流で自然を守り、地域の素晴らしさを子どもたちに伝えよう



交流センターふれあい活動



どんど焼き

実践目標 1 地域のつながりをより深める

内容

- ①地域福祉ネットワーク協議会を設立しよう
- ②地域行事や学校行事へ積極的に参加しよう

効果

様々な団体が協力して行事などを行うことにより、世代を超えた住民の交流ができ、絆が深まります。

実践目標 2 緊急時を想定した地域防災体制の拡充

内容

- ①自治区ごとに自主防災組織の充実
- ②防災訓練の実施を行う

効果

自主防災組織の充実を図ることにより、防災意識の向上や、地域における要援護者の把握ができ、災害発生時の避難活動に役立ちます。

和田

スローガン

世代間のつながりを大切に、助け合いの心で、
安心して暮らせる地域にしていきたい



子どもクラブ



和田ワークショップ風景

実践目標 1 地域の交流の場をつくり、顔の見える関係をつくろう

内容

①気軽にいける公民館・集会所（6箇所）を活用して井戸端的な交流の場をつくる

- ・集まる機会が増えることで福祉についての学習の機会になります。
- ・交流を通して助け合いのアイデアがうまれます。

効果

- ・いつまでも生きがいを持って生活できる環境が更に充実します。
- ・参加する機会が出来ることで、人材育成（ボランティア）につながります。
- ・障がいのある方も参加する機会が出来ます。

実践目標 2 みんなが安心できる地域の防災・防犯体制を整えよう

内容

- ①防災体制をつくる
- ②声かけ見守り体制をつくる
- ③パトロール活動の開始（警察との連携）

効果

- ・周囲の環境への関心が高まります。
- ・災害に対する危機意識が高まり防災訓練への参加者が増えます。
- ・お互いを気にかける気持ちが更に高まります。

実践目標 3 子育てに魅力のある暮らしやすい地域にしよう

内容

①子どもを中心とした世代間交流の出来る機会をつくろう

- ・地域ぐるみでの子育てが出来るようになります。
- ・若い方が増え和田地区の住民が増えることが期待できます。
- ・昔のことを伝承できます。
- ・Uターン者が期待できます。
- ・子育てに不安のある保護者の支援につながります。

今 津

スローガン

子どももお年よりも障がいのある人も共に、
ずっと安心して暮らせる地域を目指して



福祉の郷いまづ主催 住民による災害図上訓練



今津ワークショップ風景

実践目標 1 世代間交流をしよう

内容

- ①町内清掃活動を利用し取り組む
- ②地域行事の活用

効果

地域の様々な人が参加できる行事を多く企画し、参加しやすい環境をつくることで、顔見知りが増えます。顔見知りが増えることにより、日常のあいさつや声かけがしやすく、ゴミ出しや買物などの生活の困りごとを頼みやすい関係を築いていきます。

実践目標 2 声かけ合って大きな輪を広げよう

内容

- ①あいさつ運動
- ②声かけ運動
- ③見守り活動

効果

あいさつの多い生活環境は、住人同士の絆を深め、高齢者や障がいのある人の孤立を防ぎます。また、おとな（企業を含め）の意識も変わり、子どもへの良い影響につながります。

実践目標 3 防災に対する意識の啓発活動をしよう

内容

- ①避難訓練を実施する
- ②避難道路マップをつくる
- ③安全な避難場所・道路の確保をして、地域住民全員に周知する

効果

防災対策に対する情報の周知活動により、地域住民同士が顔見知りになる機会が増え、避難時の対応がスムーズになります。また、世代間交流にもつながります。

三 光

スローガン

住みよいふるさとづくりをしよう



15地区ごとに開催される小地域ネットワーク会議



三光ワークショップ風景

実践目標 1 行事・活動を活かして、地域ぐるみで意識の高揚をはかろう

内容

- ①風船バレー大会を地区全体で支える行事にする
- ②いきいきサロンの活動を活かした人材育成
- ③研修、学習の場への呼びかけ
- ④地域の行事を継続する中で、人材を育成する

効果

さまざまな人が参加する場が増えることで相互理解が進み、人のつながりが広がり、地域福祉活動に関わる人材が育成される機会となります。さらに人材が増えることでボランティアの登録制度のしくみの必要性への理解が広がり、人材把握の仕組みづくりにつながります。

実践目標 2 お互いの声かけで、地域の中に人と人のつながり、心と心のつながる関係づくりをしよう

内容

- ①ふれあいの場の関係づくりをする（コミュニティの輪を広げる）
- ②小地域で、声かけ見守りのしくみづくりをする

効果

三光地区全体の交流（花づくり）を通して三光地区の住民としての自覚が生まれ、将来的には中津市全体の地域交流につながります。小地域での見守りを行うことによりコミュニケーションが図れ、孤立化を防ぐことができます。

実践目標 3 地域の一人ひとりが意識の持てるしくみをつくろう

内容

- ①防災・防犯のしくみづくり
- ②当事者の理解を深める
- ③情報の発信を工夫する

効果

3つの実践内容を実施していくことで、地域の福祉に関する住民の意識向上が期待できると同時に、活動を通じて住民同士のつながりができ、支え合うことで孤立が解消されていきます。

本 耶 馬 溪

スローガン

「なんち言うたち、さかしいんが一番、なかよしも一番」
 (自然、地域、住民すべてが健康で明るく、支え合い住みやすい地域づくりをめざして)



ふれ愛ネットを活かした「災害に強い地域づくりのための防災教室」



本耶馬溪ワークショップ風景

実践目標 1 誰もが安心して生活できる町をつくろう

- 内容**
- ①地域のネットワークを充実する
 - ②地域で防災訓練を実践する
 - ③必要な情報を共有する

- 効果**
- ・地域の人が皆孤立せず、安否確認ができます。
 - ・自主防災組織が実際に災害が起きた時も機能します。
 - ・災害時に支援が必要な人を把握できます。
 - ・住民が生活に必要な情報を共有できます。

実践目標 2 人と人とのつながり、絆のある地域をつくろう

- 内容**
- ①高齢者～子どもまで、気軽に集まれる寄り合いの場をつくる
 - ②障がい福祉の理解を広める

- 効果**
- ・地域の住民同士の出会い、ふれ合い、支え合いの関係づくりを広げられます。
 - ・地域のつながり、絆が深まることで、日常の声かけや見守りの拡充が図れます。
 - ・障がい者やその家族への関わりが自然なものとなり、地域との関わりが広がります。
 - ・高齢者～子ども、障がいの有無に関わらず、気軽に声を掛け合える関係が出来ます。

実践目標 3 人材育成のシステムをつくろう

- 内容**
- ①何でも相談できる窓口をつくる
 - ②担い手を育成する

- 効果**
- ・地域の生活課題に対し、住民同士で支え合う関係をつくる事が出来ます。
 - ・多様な人々が「生きがい」を持って参加することが出来ます。
 - ・地域福祉活動を行う「担い手」を増やし、育成することが出来ます。
 - ・現在活動をしているリーダーの資質を向上することが出来ます。

耶馬溪

スローガン

一人ひとりがふれあい、支え合う、安全・安心な福祉のまち耶馬溪



ノーソククラブでの津民地区いきいきサロン



耶馬溪ワークショップ風景

子どもからお年寄りまで安全・安心に暮らせるよう 見守りネットワークを充実させよう

実践目標 1

内容

- ①見守りネットワークを強化する
- ②地域の宝である子どもは地域全体で見守る

効果

見守りを強化し世代を超えた交流をすることで地域内のコミュニケーションや情報共有が図られ、住民の支え合う意識が生まれて地域の絆が強化できます。

実践目標 2 地域のことをみんなで考えるふれ合いの場づくり

内容

- ①実態の把握と人材発掘
- ②必要に応じて地域サロンを立ち上げていく
- ③各地域間で交流をしながら発展させていく

効果

地域の中に世代や環境（生活や障がいなど）にとらわれない、誰もが気軽に集まれる場をつくり継続的に交流を持つことでお互いを知り、理解することができます。住民が抱える地域の課題や問題点（社会的孤立者など）を共有することで解決に向けて皆で取り組めるようになります。交流の機会が増えることで、その地域の人材発掘及び人材育成が可能になります。

見守りネットワークを活かした 安全・安心して暮らせる組織をつくろう

実践目標 3

内容

- ①防災・防犯意識の向上と連絡網を充実させる
- ②災害を想定した防災訓練を地区行事として計画し、実施する

効果

地区行事に防災訓練を取り入れ実施することで、住民一人ひとりが防災や防犯に対し意識を持ち、知識が向上します。また、地域ぐるみの訓練により支え合い精神『共助』が芽生え、組織が充実し『地域力』が高まります。行政や社協および地域に密着した警察・診療所・郵便局・地元の企業との連携によりネットワーク化が図られることで、人材の発掘や育成に期待ができます。

山 国

スローガン

緑豊かな源流に、みんなが安心して住めるまち



溝部地区寄り合いの場「たいしょう陣」



山国ワークショップ風景

実践目標 1 地域福祉の担い手を育てよう

- 内容**
- ①山国地区の住民によるお助けボランティアセンター立ち上げ
 - ②寺小屋をつくる（子どもを中心とした世代間を超えたもの）

効果 ボランティアを通じた人づくりによって地域の連携や住民の生きがい生まれると共にリーダーが育成され、住民の手による安心安全なまちづくりが創られます。

実践目標 2 住みやすい地域を目指して絆を深めよう

- 内容**
- ①地域のコミュニケーションを深めよう
 - ②住みやすい環境づくりをしよう

効果 小地域でのコミュニケーションを密にすることで家族や隣近所との絆が深まり寄り合いの場を通して地域の情報の共有や困りごとを気軽に頼みあえる関係が築けます。またボランティア制度や困りごと相談窓口などが住民同士をつなぐ役割として期待できます。

実践目標 3 安心、安全な地域のしくみづくり

- 内容**
- ①移動手段を便利にしよう
 - ②地域の防災体制のしくみをつくろう

効果 サロンを充実していくことにより、買い物支援や情報交換を図れ、地域のつながりが深まり、住民の生きがいづくりにもつながります。既存の自主防災組織の見直しを行うことで、災害時の要援護者の把握・情報共有が可能になり、災害時に強い地域づくりが可能になります。

